

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト

2013 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成公募 公開プレゼンテーション

【日時】3月3日(日)10:00~16:00

【会場】日比谷図書文化館スタジオプラス(千代田線霞ヶ関駅ほか、下記リンク参照)

<http://hibiyal.jp/hibiya/access.html>

お米から果物まで、ときには「減農薬」の切り札として用いられ、シロアリ駆除剤や防虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいるネオニコチノイド系化合物(フィプロニルを含む)——。有機リン系農薬の代替物として1990年代に開発されて以来、国内外を問わず使用が急拡大するネオニコチノイド系農薬は、その浸透性・残効性・神経毒性から、ミツバチの大量失踪が示唆するように生態系と生物多様性全体を脅かすばかりか、子どもたちの脳の発達にも悪影響をおよぼす可能性が指摘されています。欧米では研究や規制が進みつつあり、最近EU議会も有害性に踏み込んだ政策を発表したばかりですが、日本ではまだ野放しに近い状態です。

NGO 市民活動支援基金アクト・ビヨンド・トラストによる2年目の公募に応え、一次審査を通過した11企画の公開発表会を下記のプログラムで開催します。ぜひご参加ください(入場無料)。

【プログラム】

10:15~10:25	開会あいさつ+選考委員紹介	
10:25~10:45	丹羽 理	「ネオニコチノイド×写真」ネオニコチノイド問題の可視化プロジェクト
10:50~11:10	後藤純子	ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト
11:15~11:35	大木悦子	水田の農法履歴聞き取り・アンケートによる浸透性農薬使用実態調査
11:40~12:00	竹ノ内敏一	空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査
12:00~13:00	昼休み	
13:00~13:20	ネオニコネット	ネオニコネット広報活動
13:25~13:45	ネオニコネット	ネオニコフリー・生き物認証システムの推進
13:50~14:10	一般社団法人日本在来種みつばち協会	ネオニコチノイド系農薬フリー地域づくり
14:15~14:35	NPO 法人河北潟湖沼研究所	河北潟地域におけるラジコンヘリ散布を行わないエリアの拡大とカメムシ米のブランド化
14:40~15:00	NPO 法人鹿児島県有機農業協会	ネオニコから大切な人を守りましょう！キャンペーン
15:05~15:25	NPO 法人鹿児島県有機農業協会	ネオニコチノイド系農薬等フリー認証(ネオニコフリー認証)普及プロジェクト
15:30~15:50	一般社団法人イノチネ	“自然農の里・岡山“から考えるネオニコ問題—最も有効な農薬削減策は使わないこと
15:50~16:00	連絡事項+閉会あいさつ	

※ 発表 10分/質疑応答 10分

2013 年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成公募
一次審査通過企画 概要一覧

- ※ 申請書受付順
- ※ 企画概要は申請書記載の内容を転載

<p>「ネオニコチノイド系農薬フリー地域づくり」 一般社団法人日本在来種みつばち協会(申請者:高安和夫)</p>
<p>広報・社会訴求／市場“緑化”／政策提言部門</p>
<p>茨城県の稲敷市、笠間市、大子町において各自治体や茨城県農村環境課と連携したネオニコフリー地域づくりを支援し、田んぼの生き物調査会やどんと焼きイベント開催などで、地域とそれを支援する都市生活者の交流を促進する。さらに地元議員や国会議員、JA 関係者や流通関係者も参加するシンポジウムを笠間市で開催し、地域と中央が連携した環境保全型農業地域づくりモデルとして、茨城県内及び全国の自治体に発信していく。同時に首都圏でネオニコフリーのお米の PR イベントを開催し、流通業者や消費者の賛同を得る。</p>
<p>「ネオニコネット広報活動」 ネオニコチノイド系農薬の中止を求める NGO ネットワーク(申請者:高安さやか)</p>
<p>広報・社会訴求部門</p>
<p>ネオニコチノイドの問題を幅広く社会に訴えていきます。具体的にはHPの整備とネオニコチノイドの問題を考える映画の上映や対話イベントの開催、ニコチンビーDVDの普及と販売、ファームエイド銀座や土と平和の祭典への出展、及びリーフレットやその他広報資料の作成です。</p>
<p>「ネオニコフリー・生き物認証システムの推進」 ネオニコチノイド系農薬の中止を求める NGO ネットワーク(申請者:久保田裕子)</p>
<p>広報・社会訴求／市場“緑化”部門</p>
<p>ネオニコチノイド系殺虫剤を使わない「ネオニコフリー・生き物認証システム」は、昨年の活動の成果として、茨城県笠間市、稲敷市の生産者の協力を得てパイロット事業が立ち上がり、認証基準や認証手順書も完成しました。本年は個人の生産者だけでなく JA や生産組合、流通関係者にも検討会に参加いただき、認証システムを推進して行く。あわせて首都圏において生産者、流通関係者、消費者が参加する対話集会を重ね、その結果を HP やメディアに発信し、ネオニコフリー・生き物認証の認知度向上を目指していく。</p>
<p>「空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査」 竹ノ内敏一</p>
<p>調査・研究／広報・社会訴求部門</p>
<p>2013 年 6 月、長野県坂城町と千曲市では昨年に引き続きネオニコチノイド空中散布が実施される予定である。そのために、申請者らプロジェクトチームは、落下量と気中濃度を測定し、ネオニコチノイドが散布され飛散したことを科学的に検証することを企画した。分析には極微量分析が可能な LC/MS/MS 法を用いる。並行してアンケート調査を行い、健康被害が顕著に生じた場合は尿分析を実施する。得られた知見を総合的にまとめ、報告書を作成する。報告書は公開し、空中散布是非のための資料とする。</p>
<p>「水田の農法履歴聞き取り・アンケートによる浸透性農薬使用実態調査」 大木悦子</p>
<p>調査・研究部門</p>
<p>神奈川県愛川町尾山耕地(休耕地を含む約 130 区画)の稲作農家の方々や生協、JA、県農業関連機関などにフィプロニルなどの浸透性農薬の使用実態を聞き取り調査する。また、尾山耕地での浸透性農薬の使用中止事例について、水生生物調査データをもとに農法によって環境回</p>

復する期間の違いを比較検証し、関連資料を参考に、残留農薬の解消と生物多様性・生態系回復を早める農法を探る。

「ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト」

後藤純子

広報・社会訴求部門

①今年度に引き続き、来年度もみつばちの生態と、みつばちから見た環境という観点で講座を企画し、巣箱からみた大量死を含む「A TALE OF ONE QUEEN BEE」のお話を、復習用にお持ち帰りいただきたいと思っています。②このお話のミュージカル化の企画が続いています。連動して活動いたします。平成 26 年 3 月に映像の形になり、関東圏で上映会を開催する予定です。③海外で広げることが継続します。④ネオニコチノイド系農薬が胎児へ与える影響を懸念し、みつばちの幼虫と対比したお話「よぼうげんそく」を構想しました。むずかしいテーマですが形にしていきたいと考えています。

「河北潟地域におけるラジコンヘリ散布を行わないエリアの拡大とカメムシ米のブランド化」

NPO 法人河北潟湖沼研究所(申請者:高橋久)

調査・研究／広報・社会訴求／政策提言部門

河北潟沿岸域でカメムシ防除の名目にて実施されているネオニコチノイド系を含む農薬のラジコンヘリによる空散により地域の生物群集が受ける影響を、同地域における無農薬栽培圃場との比較において明らかにするとともに、農薬を使用しない場合の実際のカメムシ被害の程度を明らかにし、米の等級制度の問題点を広く農家及び消費者に提起し、地域単位でのネオニコチノイドを使用しないことによる付加価値米の生産の機運を醸成する。

「ネオニコから大切な人を守りましょう！キャンペーン(ネオニコ・キャンペーン)」

NPO 法人鹿児島県有機農業協会(申請者:常見裕之)

調査・研究／広報・社会訴求部門

ネオニコチノイド系農薬の使用の実態、被害の実態、流通の実態を調べると共に、鹿児島県で流通している農産物のネオニコチノイド系農薬の残留調査を行い、調査結果をまとめ、環境、子育て、医療などの関係団体を中心に、広く人々に伝えるキャンペーンを行い、家族をはじめ大切な人の健康を守ろうとする人々が、ネオニコチノイド系農薬が残留していない有機農作物などを選択できるようにする。さらに、鹿児島県での取組を、有機農業関係者のネットワークを通じて他の都道府県で展開するためのパイロットプロジェクトとする。

「ネオニコチノイド系農薬等フリー認証(ネオニコフリー認証)普及プロジェクト」

NPO 法人鹿児島県有機農業協会(申請者:常見裕之)

広報・社会訴求／市場“緑化”部門

ネオニコチノイド系農薬をはじめ有機 JAS で使用を認められていない農薬が使用されていないことを認証するネオニコチノイド系農薬等フリー認証(ネオニコフリー認証)のスキーム(しくみ)を、有機 JAS 登録認定機関の独自認証として開発すると共に、ネオニコフリー認証をしめすマークのデザインを一般公募し、選考も市民参加型として国際オーガニック映画祭で行い、またオーガニックフェスタの出展者にネオニコフリー認証のマークの表示をしてもらい、さらにネオニコフリーをテーマに歌を公募し、オーガニックフェスタで市民参加型の選考会を行うなど、ネオニコフリー認証の普及を図る。

「“自然農の里・岡山”から考えるネオニコ問題—最も有効な農薬削減策は使わないこと」

一般社団法人イノチネ(申請者:丸岡鷹次)

調査・研究部門

岡山県では、農薬・化学肥料の使用を一切認めない「おかやま有機無農薬農産物」を独自展開している。その認証者は約 150 人、農地面積は 89ha であるが、さらに有機肥料も使用しない農

家も相当数に上る。「無肥料・無農薬」栽培(自然農)に取り組む生産者への聞き取りにより、農薬への問題意識、独自の栽培手法と流通経路などを調査するとともに、慣行農業の農薬使用の実態を調査し、ネオニコチノイド系農薬問題を考察する。次年度以降、小規模農家間に「信頼関係」に基づく独自の安全認証を構築する布石として本調査を位置づける。

『ネオニコチノイド×写真』ネオニコチノイド問題の可視化プロジェクト

丹羽 理

調査・研究／広報・社会訴求部門

ネオニコチノイド×写真(フォトルポルタージュ)

写真を通じ、ネオニコチノイド問題を可視化する。日本各地でのフィールドワークを通して養蜂家、農家、林業関係者等、現場の声を聞き(取材・撮影)、結果をまとめ(冊子・マルチメディア化)、広く発信する(報告会・ウェブでの公開)。瞬間的に人の心を引きつけ得る写真表現というアプローチによって視覚的な広報活動を展開し、ネオニコチノイド問題に対する興味・関心の間口を広げる。

【お問い合わせ】

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト(公募担当:八木)

電話: 070-6551-9266(10:00~19:00)

E-Mail: grant@actbeyondtrust.org

<http://www.actbeyondtrust.org>

[abt ウェブサイトのトップに戻る](#)